

令和4年7月28日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

ムーンショット型研究開発事業（ムーンショット目標1、3、6）における プロジェクトマネージャーの追加決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、ムーンショット型研究開発事業（ムーンショット目標1、3、6）のプロジェクトマネージャー追加募集における採択者を決定しました。

ムーンショット型研究開発事業は、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的研究開発を推進すべき分野・領域などとして文部科学省により定められた研究開発構想に基づき、研究開発を推進するものです。ムーンショット目標に関する研究開発全体の責任者であるプログラムディレクター（PD）の下、プロジェクトマネージャー（PM）は、ムーンショット目標達成および研究開発構想実現に至るシナリオの策定、研究開発プロジェクトの設計、研究開発体制の構築、研究開発プロジェクトの実施管理などを行います。提案はムーンショット目標ごとに募集し、PDがアドバイザーなどの協力を得ながら選考しました。

ムーンショット目標1、3、6では令和2年度より研究開発が進められていますが、各目標の達成のため、既存の研究開発プロジェクトに加えて新たに必要となる研究開発プロジェクトを推進することとしました。研究開発プロジェクトの推進責任者となるPMを追加募集した結果、計42名の応募がありました。募集締め切り後、書類選考と面接選考を実施し、計16名を採択しました。

今後、ムーンショット目標達成に向けて、より効果的・効率的な研究開発となるよう、採択されたPMは、PDの指揮の下でムーンショット目標達成に至るシナリオ、研究開発プロジェクトの詳細計画などの作り込み（提案した研究開発プロジェクトの内容の見直しなど）を行います。その内容が妥当であるとPDに認められたPMは、研究開発プロジェクトの実施が可能となります。

詳細は下記ホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/moonshot/index.html>

<添付資料>

別紙1：応募数および採択数

別紙2：プロジェクトマネージャー（PM）・研究開発プロジェクト一覧

別紙3：評価者一覧

参考1：選考の観点

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 ムーンショット型研究開発事業部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

犬飼 孔（イヌカイ コウ）、古賀 明嗣（コガ アキツグ）

Tel : 03-5214-8419 Fax : 03-5214-8427

E-mail : moonshot-koubo@jst.go.jp

※電子メールでお問い合わせください。

応募数および採択数

ムーンショット目標名	応募数	採択数
ムーンショット目標 1 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現（PD：萩田 紀博）	11	4
ムーンショット目標 3 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現（PD：福田 敏男）	20	7
ムーンショット目標 6 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現（PD：北川 勝浩）	11	5
合 計	42	16

プロジェクトマネージャー（PM）・研究開発プロジェクト一覧

（五十音順）

ムーンショット目標1「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」

PM氏名	所属・役職	研究開発プロジェクト名
新井 史人	東京大学 大学院工学系研究科 教授	生体内サイバネティック・アバターによる健康・医療の実現
新保 史生	慶應義塾大学 総合政策学部 教授	アバターを安全かつ信頼して利用できる社会の実現
松村 武	情報通信研究機構 ネットワーク研究所 ワイヤレスネットワーク研究センター ワイヤレスシステム研究室 室長	M×Nマルチペアリング型無線プラットフォームの研究開発
山西 陽子	九州大学 大学院工学研究院 教授	ナノ・マイクロバイオアバターが拡張するバイオ秩序の共創フロンティア

ムーンショット目標3「2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現」

PM氏名	所属・役職	研究開発プロジェクト名
上野 宗孝	宇宙航空研究開発機構 宇宙探査イノベーションハブ 技術領域主幹	AIロボットにより拓く新たな生命圏
牛久 祥孝	オムロンサイニックス株式会社 プリンシパルインベスティゲーター	人と融和して知の創造・越境をするAIロボット
大武 美保子	理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー	ありたい未来を共に考え行動を促すAIロボット
國井 康晴	中央大学 理工学部 教授	進化型群知能による確率的空間認識と協調建築作業
下田 真吾	理化学研究所 脳神経科学研究センター ユニットリーダー	主体的な行動変容を促す Awareness AIロボットシステム開発
森島 圭祐	大阪大学 大学院工学研究科 教授	人・AIロボット・生物サイボーグの共進化による新ひらめきの世界
吉田 和哉	東北大学 大学院工学研究科 教授	月面探査／拠点構築のための自己再生型AIロボット

ムーンショット目標6「2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる
誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現」

PM氏名	所属・役職	研究開発プロジェクト名
青木 隆朗	早稲田大学 理工学術院 教授	ナノファイバー共振器QEDによる大規模量子ハードウェア
大森 賢治	自然科学研究機構 分子科学研究所 教授／研究主幹	大規模・高コヒーレンスな動的原子アレー型・誤り耐性量子コンピュータ
小林 和淑	京都工芸繊維大学 電気電子工学系 教授	スケーラブルな高集積量子誤り訂正システムの開発
樽茶 清悟	理化学研究所 創発物性科学研究センター グループディレクター／量子コンピュータ研究センター チームリーダー	拡張性のあるシリコン量子コンピュータ技術の開発
永山 翔太	慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特任准教授	スケーラブルで強靱な統合的量子通信システム

※研究開発プロジェクト名は、採択後の作り込み（提案した研究開発プロジェクトの見直しおよび具体化）を経て変更される場合があります。

評価者一覧

ムーンショット目標1「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」

	氏名	所属・役職
プログラムディレクター（PD）	萩田 紀博	大阪芸術大学 芸術学部 アートサイエンス学科 学科長・教授
アドバイザーなど外部有識者	稲見 昌彦	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
	落合 啓之	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授
	加納 敏行	日本電気株式会社 データサイエンス研究所 上席技術主幹
	北野 宏明	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長
	小林 正啓	花水木法律事務所 所長
	坪井 俊	武蔵野大学 工学部 数理工学科 特任教授
	土井 美和子	情報通信研究機構 監事／東北大学 理事
	徳田 英幸	情報通信研究機構 理事長
	野原 佐和子	株式会社イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長
	東野 輝夫	京都橘大学 副学長
	藤沢 久美	株式会社国際社会経済研究所 理事長
	福田 敏男	名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授

ムーンショット目標3「2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現」

	氏名	所属・役職
プログラムディレクター (PD)	福田 敏男	名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授
アドバイザーなど外部有識者	石塚 満	東京大学 名誉教授
	植木 美和	富士通株式会社 コンバージングテクノロジー研究所 プロジェクトマネージャー
	上田 修功	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 フェロー／理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長
	大倉 典子	芝浦工業大学 S I T 総合研究所 特任教授
	奥乃 博	京都大学 名誉教授
	尾畑 伸明	東北大学 大学院情報科学研究科 教授
	笠原 博徳	早稲田大学 副総長 (研究推進)
	久保田 孝	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授
	國府 寛司	京都大学 大学院理学研究科 教授
	塩沢 恵子	株式会社アドイン研究所 製品サービス事業部 取締役
	建山 和由	立命館大学 総合科学技術研究機構 教授
	友枝 敏雄	関西国際大学 社会学部 学部長
	中須賀 真一	東京大学 大学院工学系研究科 教授
	橋本 秀紀	中央大学 理工学部 教授

宮下 朋之

早稲田大学 理工学術院 教授

ムーンショット目標6「2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる
誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現」

	氏名	所属・役職
プログラムディレクター（PD）	北川 勝浩	大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授
アドバイザーなど外部 有識者	石内 秀美	元 株式会社先端ナノプロセス基盤開発センター（EIDEC） 代表取締役社長
	井元 信之	東京大学 特命教授室 特任教授
	小澤 正直	中部大学 AI数理データサイエンスセンター 特任教授
	川畑 史郎	産業技術総合研究所 新原理コンピューティング研究センター 副研究センター長
	上妻 幹旺	東京工業大学 科学技術創成研究院 教授
	佐々木 雅英	情報通信研究機構 量子ICT協創センター 研究センター長
	茂本 勇	東レ株式会社 先端材料研究所 研究主幹
	中村 泰信	東京大学 大学院工学系研究科 教授
	村尾 美緒	東京大学 大学院理学系研究科 教授
	山下 茂	立命館大学 情報理工学部 教授
	若山 正人	日本電信電話株式会社 基礎数学研究センター 数学研究プリンシパル／九州大学 名誉教授

選考の観点

選考は、主に以下の観点などに基づき総合的に実施しました。

- ① PMとしての資質
 - 最先端の研究開発を推進するため、国内外の関連する研究者などの幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること。
 - 最適な研究開発体制を構築し、進捗状況などに応じて機動的に体制を見直すなどのマネジメント力、リーダーシップ力を有すること。

- ② PMの提案する研究開発プロジェクト
 - PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、従来のものとは比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること。
 - 2050年の目標達成に向けて、技術的観点や官民の役割分担を含む社会実装の観点から妥当なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること。
 - 提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、アイデアを結集するものであること。